

前橋クリエイティブシティ
県庁～前橋駅都市空間デザイン 国際コンペ 第4回審査委員会
議事

日時：令和7年3月22日（土） 10：00～18：30

場所：煥乎堂ホール

1. 開会

2. 議事

(1)公開プレゼンテーション

以下のタイムスケジュールで公開プレゼンテーションを開催

●タイムスケジュール

時間	内容
9時30分～	受付開始
10時00分～	挨拶、注意事項など
10時20分～	G445 公開プレゼンテーション
11時15分～	G758 公開プレゼンテーション
11時55分～12時55分までお昼休憩	
12時55分～	注意事項など
13時00分～	G439 公開プレゼンテーション
13時55分～	G503 公開プレゼンテーション
14時50分～	G423 公開プレゼンテーション
15時30分	公開プレゼンテーション終了、解散

※公開プレゼンテーション終了後、16:00 より煥乎堂ホールにて2次審査を実施

(2)2次審査について

●事務局から2次審査の手順を説明

●2次提案5作品の審議(※プレゼンテーション発表順に審議)

【G445】への審査委員の主な意見

(A委員) プレゼンテーションを聞いて、かなり良いと思った。4つのプロセス「みつける」「つくる」「つなげる」「そだてる」とあったが、特に「つくる」は充実された提案で、色々なポイントを組み合わせることに可能性を感じた。

(B委員) 県民広場の大らかな形態は魅力的である。一方で、五差路の巨大なブリッジや

道路断面に段差を作るところに不安があり、また、ベースとなる道路デザインに固有性をあまり見出せなかった。

- (C委員) 五差路のブリッジのあり方については今後議論が必要だが、公共施設が持つべき機能に対して一石を投じるところがある。また、デザイナーとしての自信と意欲、提案を実現するデザイン力があるチームだと感じた。
- (D委員) 立体構造物の形状や交通処理の方向性など今後検討が必要だが、根本となる考え方が共感しやすい提案である。
- (F委員) 提案するインフラの整備とともに、前橋市民のシビックプライドの醸成という部分が強く、この提案についてリーダーシップを発揮して実現するという意欲を感じた。
- (G委員) スマート信号システムを前提とした交通処理計画に不安があり、今後 15 年で実現性がどうなるか不安である。
- (H委員) この提案のメインは五差路と県民広場の立体構造物が大きく影響していると考えているが、その必要性に疑問がある。
- (I委員) 交通処理や立体構造物に懸念はあるものの、市民との合意形成プロセスや体制の構築を丁寧に行っていることと、一貫したコンセプトは評価が高い。

【G758】への審査委員の主な意見

- (A委員) 良い提案だと思うが、人・自転車・環境・公共交通の全てにいいというのは八方美人すぎて面白みに欠ける。まゆだまルーフにコストをかけ過ぎている。
- (B委員) 正しく、綺麗にできている提案だと思うが、新しさが感じられない。道路を立体化する場合は建築はあった方がいいと思うので、まゆだまルーフは評価できるが、利用用途が不明瞭である点に懸念がある。
- (C委員) 丁寧に事業を進めてくれるグループだと思うが、コンペで決定した都市空間デザインとして打ち出す時のインパクトに弱さがある。
- (D委員) 提案内容が無難すぎて、将来 50 年・100 年先にこのまちのアイデンティティになるのかということを考えると、この提案からは感じられない。
- (F委員) 今この提案を見て普通だと思うものが、将来に今と同じ強度で世の中に出せるものになるか。ランドマークであるまゆだまルーフは芸術的だが、利用用途によっては将来足を引っ張る可能性を秘めているのではないか。
- (G委員) 交通処理計画が分かりやすい提案で、プレゼンテーションでの交通シミュレーションからも公共交通を優先させる流れも理解でき安心感がある。一方、面白みに欠ける提案ではあるが、沿道との連携を考えると、デザインがシンプルな方が連携しやすいと思う。
- (H委員) まゆだまルーフは完成度が高く、県民広場も使い方を工夫すれば機能しそうな提案である。一方、道路空間に変化があまり見られず、人が訪れたい空間が創出できているか疑問である。

- (I 委員) 提案内容が素晴らしく、前橋の地域事情もしっかり把握した提案である。一方、シンプルで実現性は高いと思うが、新たな価値を生み出す道路空間の設えとして、どこにでもありそうな道路空間で、この場所に行ってみようと思わせるようなものがない印象である。

【G439】 への審査委員の主な意見

- (A 委員) 交通処理計画がよく考えられた提案である。一方、五差路の横断歩道橋にデザイン性が感じられない。
- (B 委員) 歴史や水系などを丁寧に読み解き、個性のある提案であり、いつでも賑わっていることを前提としていないところも好印象である。ただし、県民広場の大屋根の必要性が分からなかった。
- (C 委員) 水にフィーチャーしていながら、水を見るだけで、使える水でもなく、生物の生きられる水でもない。五差路の横断歩道橋や県民広場の大屋根はデザイン力が弱いと感じる。また、ケヤキを見たいと言っていたが、ケヤキや山の景色に触れておらず、道路しか見ていない提案だと感じた。
- (D 委員) 五差路と県民広場の構造物のコストが高いこと、水の維持管理など未来に対して負の遺産になってしまう不安がある。また、気候に頼った水の使い方やどこの水を使うのかなど課題がある。
- (F 委員) 都市の景観として水を使うことは潤いがあるが、メンテナンスに不安がある。この提案は他の提案と異なり、水を使った活動は市民にやってもらい、メンテナンスなどは市民に委ねる形ではなかった（行政で維持管理）ので、そこは実現性があると感じた。
- (G 委員) 水が溜まったり、冬季は凍結、夏場は水回りの問題があるのではないか。
- (H 委員) 五差路の横断歩道橋はバリアフリーへの配慮が必要である。県民広場の大屋根は北風と逆方向で地域特性の理解が足りない。
- (I 委員) 奇抜なデザインや次世代を見据えたデザイン提案としつつ、水をテーマにしながら、地域の歴史性を合わせるとというのが、それぞれ無理矢理関連付けた提案に見えた。

【G503】 への審査委員の主な意見

- (A 委員) 群島のメンテナンスやオーナーシップ制度など運用面の説明が不足しており、実現可能な提案なのか心配である。
- (B 委員) 維持管理が手薄になって、緑が放置される事態になっても成立するという提案であればよかったと思う。2次提案でストリートファニチャーが過剰になったイメージがある。
- (C 委員) 道路の地下には様々なライフラインがあり、イメージ通りの空間にするための実現性に不安がある。ランドスケープデザインは、視覚的な説明ばかりで、生

物をどう考えているのかの説明がなかった。また、物理的な制限が多すぎて、市民が望むことが実現できない可能性があり心配である。

- (D委員) 市民参加を強く訴えていたが、将来人口減少により市民活動が活発でなくなったとき、誰が維持・運営していくのか疑問である。
- (F委員) 最初から全て盛土や植栽するのではなく、ワークショップなどの市民からの意見でイメージパースのように物量が多くなりえない可能性を内包した提案であり、柔軟に対応する姿勢も見られたので、発展性もある。
- (G委員) 公園内の通路であれば良いが、あくまでも道路として捉えると、そこまでの維持管理は難しいと感じた。
- (H委員) この場所に二度、三度と来たくなるような場所にしたいと考え、公園が少ないこのエリアでケヤキ並木を中心としてこの空間を育て上げる必要があると感じた。市民活動も具体的なところまで言及していたのは評価したい。
- (I委員) 維持管理などの課題はあるものの、道路空間でありながら新たな都市の公園という概念のものと設えて、市民が作り上げていくというプロセスは評価したい。

【G423】への審査委員の主な意見

- (A委員) まちハブをもう少し上手い使い方をすれば広がりを持つ可能性があったが、中途半端なところが多いと思う。沿道などとの連携するアイデアもなく、ワークショップさえやればうまくいくという安易な印象を受けた。
- (B委員) 全体の考え方には共感した。界隈性を持たせていることや広域で考えているところも好感がもてる。一方、ルーバー屋根の機能と役割をもっと提示できたのではないかと感じた。
- (C委員) リサーチが沿道だけでなく、周辺まで考慮した提案になっているところがいい。道路を線形だけでなく、ルーバー屋根により、ここに来たら速度を落とす、スーッと通り抜けていいところではないと印象づけられと思う。一方、ルーバー屋根に依存しているところの弱さとルーバー屋根がワクワクしたデザインでなく、インパクトに欠けている。
- (D委員) ルーバー屋根の意匠的な部分が強く、市民生活やコミュニティの今後を考えたときに、どのように機能するのかが分からず、発展性が見込めない提案である。
- (F委員) まちハブやビオトープを機能させるのは、エネルギーが必要で、行政も民間も難しいと思う。ルーバー屋根は県産木材を用い、耐久性はあっても見た目が悪くなる。まちハブもルーバー屋根ありきでの提案となっており、無くなった時まちハブの機能はどうなるのかが分からなかった。
- (G委員) まちハブとその周辺をどう連携させていくのか想像がつかなかった。こう連携していくという提案があれば、実現性のあるものになったと思う。
- (H委員) 本コンペの目指すところと提案内容がズレているように思う。ルーバー屋根の必要性や維持管理が分からず、この構造で本当に人が集まるのか想像がでか

かった。

(I 委員)「まちハブ」の考え方やコンセプトは素晴らしいと思うが、12箇所も維持するのは難しい。ルーバー屋根によりまちハブを視覚的に訴えているが、まちハブの機能が提案されていない。

⇒審議の結果を踏まえ、審査委員は本採点を行い、事務局で本採点結果を集計

本採点の結果、G445 と G758 が77点で同点であり、この中から最優秀作品を選定することで各審査委員了承

●最優秀作品を審議

以下は審査委員の主な意見

(A 委員)前橋から見える景色を大事にしていること、利根川との関わりを強調するなど、前橋らしさを具現化している G445 を推したい。県庁前の道路の盛土が提案のとおりを実現できれば、新しい試みであり、景色を大事にしたシンボリックな道路のデザインになる。

(B 委員) G445 は、良いところを探してそれを市民参加で実施していくという意味では一般的な内容だが、デザイン力はあるチームだと思う。課題は五差路のブリッジをどのような処理をするかだが、デザイン力があるのでそこに期待したい。

(C 委員) 今回はプロポーザルではなく、デザインコンペとしているので、提案された内容を無碍に変えられないという懸念があるが、G445 の提案チームは、今回の提案デザインは一切の変更は応じないというような姿勢ではなかった。また、国、県、市、市民と対話をしながら事業を進めるとのことなので、心配はあるものの、デザインを含めたインパクトなどを評価し、G445 を推したい。

(D 委員) G445 の提案の中に稚拙な部分や読み解きの浅い部分はあるが、今後、市民と対話をするなど、これから5年10年と時間をかけてやっていけるチームとして可能性があり、「まちが元気になる姿」が思い描けるという判断で G445 を推したい。

(F 委員) G758 は良くまとまっているが、提案内容に弱さを感じる。G445 には多様性もあり、抽象度が高い提案だが、それを具体的にまとめていくチームのデザイン力の高さも感じることから G445 を推したい。

(G 委員) G445 は、スマート信号ありきで考えたときに実現可能となるまでの間、五差路の信号処理をどう考えるのか、その手段に疑問がある。今後の基本設計で、スマート信号実装までの暫定措置や交通分析をしてスムーズに事業を進められるのであれば G445 はいい。デザイン面では G758 は至って普通で目新しさは感じない。

(H 委員) G445 は、五差路の構造物を市民の意見を聞きながら柔軟に変化させるという

のが前提で、よく検討する必要がある。県庁前通りの市道を盛土することなど、アイデア性は G445の方が評価は高い。G758は、県庁前広場の使い方を工夫しており、完成度と実現性の高さは評価できる。

(I 委員) 完成後の姿を考えた時、G758は将来ありきたりな道路空間になってしまう印象がある。G445はハイポイントを見つけていくところから始め、市民と一緒に作り上げていくというストーリー性が素晴らしい提案で、クリエイティブな視点と育てていく視点を考えたときに伸び代がある。

⇒審議の結果、審査委員の合議により、最優秀作品、次点、入選を以下のとおり決定

【最優秀作品】

登録番号：G 4 4 5

【次点】

登録番号：G 7 5 8

【入選】(登録番号順)

登録番号：G 4 2 3

登録番号：G 4 3 9

登録番号：G 5 0 3

3. その他

(1)今後のスケジュール(審査結果の公表)について

●今後のスケジュールについて、以下のとおり事務局から説明

- ・審査の講評については、3月31日までに事務局まで提出をお願いしたい。
- ・審査結果の公表は、募集要項に則り、最優秀提案者と次点の提案作品、提案者名及び採点結果、入選の提案作品と提案者名、審査講評を4月10日に発表する。これに合わせて、提案者にも2次審査結果を通知する。
- ・これまで提案者名などは伏せていたが、応募状況等を含め、提案者名をお伝えする。
- ・1次提案について、13チーム(構成員44者)から提案があった。このうち、海外からの参加は1チーム(2者)である。
- ・本日2次審査を行った、5者については以下のとおり。

■最優秀作品【G445】

代表企業：株式会社マウントフジアーキテクトスタジオ1級建築士事務所

構成企業：WRT、Systematica、株式会社復建技術コンサルタント、

三陽技術コンサルタント株式会社

■次点【G758】

代表企業：株式会社設計領域

構成企業：株式会社スタジオゲンクマガイ、株式会社 SOCI、
大日本ダイヤコンサルタント株式会社

■入選【G423】

代表企業：有限会社オンサイト計画設計事務所

構成企業：株式会社日本海コンサルタント、株式会社 KAP、株式会社 ICE 都市環境照
明研究所、株式会社UMA design farm

■入選【G439】

代表企業：株式会社 AS

構成企業：復建調査設計株式会社、リサーチ・アーキテクト建築設計事務所、Infras、
羽藤英二

■入選【G503】

代表企業：株式会社藤本壮介建築設計事務所

構成企業：日本工営都市空間株式会社、株式会社E－DESIGN

以 上